

相談援助の理論と方法

問題 91 ソーシャルワークの特性について、システム理論の視点からなされた次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 生活システムを中心は個人であるため、個人を特化して、その変化に焦点を当てて働きかける。
- 2 生活問題の原因が個人と環境のどちらにあるのかを見極めて、その原因の除去を目指して働きかける。
- 3 個人と環境とをシステムとして一体的にとらえることは容易でないため、環境の問題については、個人と切り離して働きかける。
- 4 個人や家族、地域のそれぞれを相互に独立したシステムとしてとらえ、各システムに個別に働きかける。
- 5 個人はその環境との間で常に交互作用を行っており、個人と環境との適合のあり方に焦点を当てて働きかける。

問題 92 事例を読んで、医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)の家族への対応に関する次の記述のうち、最も適切なもの一つを選びなさい。

〔事例〕

Dさん(44歳、男性)は、1年くらい前から会社で自分の物忘れに気付いていた。会社の部下に渡し忘れたと思った書類について、部下から「昨日もいただいたので同じものが2枚あります」と言われ、ショックを受けたが、周りからは「大丈夫ですよ」と励まされた。その後半年で、ミスが多くなり、努力したのに物忘れが増えてきたDさんは、病院を受診し、アルツハイマー型認知症の初期であると言われた。医師から医療ソーシャルワーカーに対し、今後Dさんへの対応について家族の理解が必要であるので説明するようにとの依頼があり、医療ソーシャルワーカーは家族と面接した。

- 1 Dさんは話のつじつまが合わないことに気付いており、周りから「大丈夫」と言われることに悩んでいるので理解してあげてほしいと伝える。
- 2 喜怒哀楽が激しく、家族にあたることが多いので、そっとしておいてあげるように伝える。
- 3 頑固で融通性がなく、感情にもむらがあり、悪意を持ってやっているように見えるが、実際にはそうではないので、家族が誤解しないように伝える。
- 4 衝動的な行動が多いため、常に目を離さないように家族に説明する。
- 5 手足の震えなどから転倒することがあるので、注意が必要であることを家族に説明する。

問題 93 相談援助における対象の把握方法に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 個人については、援助の効率化を図るために、似たような生活課題をもつ複数のクライアントを集合的に把握する。
- 2 家族については、問題が複雑であることから、一つのまとまりとしてみるものが難しいので、原因となる家族員に焦点を当てて問題を把握する。
- 3 グループ全体の変化の過程については、援助者に対するグループメンバーそれぞれの反応がどのように変化したかによって把握する。
- 4 地域については、行政によって人為的に区切られた地域の範囲にこだわらず、地域の地縁の共同体や自然発生的な生活空間を含めて重層的に把握する。
- 5 複雑な生活問題については、提供可能なサービス内容に限定して把握する。

問題 94 ナラティブ・アプローチの成立の背景に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 伝統的な科学主義・実証主義に対する批判として誕生した経緯があり、主観性と実存性を重視し、現実[†]は人間関係や社会の産物であり、それを人々は言語によって共有しているとする認識論の立場に立つ考え方である。
- 2 診断主義アプローチへの批判として誕生した経緯があり、自我心理学から強い影響を受けている。
- 3 アメリカにおいて人種差別問題や貧富の差が生じた時代に誕生し、主体的な存在としての人間を強調し、苦悩を必須のものとする考え方に理論的基盤を持つ。
- 4 精神分析の理論から強い影響を受けたソーシャルワークへの批判から生まれ、学習理論を基盤とした方法である。
- 5 ライフモデルから影響を受け、社会相互作用の過程で生じる力に着目し、差別と抑圧という力動を強調する。

問題 95 ソーシャルワークにおける人と環境に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 リッチモンド(Richmond, M.)は、個人と社会環境とを明確に区別し、社会環境に焦点を当てて対処することが必要であることを強調する。
- 2 ホリス(Hollis, F.)は、「状況の中にある人間」といった概念を用いて、個人の人格が社会環境によって形成されていく過程を分析しようとする。
- 3 パールマン(Perlman, H.)は、「4つのP」の一つに「場所(place)」を含めることによって、個人を取り巻く環境を視野におさめようとしている。
- 4 キャプラン(Caplan, G.)は、通常の方法では対処できないほどの急激な環境変化を危機としてとらえ、環境を元に戻すための介入を重視している。
- 5 ソロモン(Solomon, B.)は、個人と敵対的な社会環境との相互関係によって、人は無力な状態に陥ることが多いとしている。

問題 96 事例を読んで、E社会福祉士の対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

〔事例〕

Fさん(85歳、女性)は、息子(55歳)と二人暮らしで、遠方に住んでいる娘夫婦とはほとんど交流がない。息子がFさんの世話を担っているが、数か月前からFさんのADLが低下して、息子が仕事で不在となる日中には訪問介護を利用している。息子は、担当の介護支援専門員に、「仕事も忙しいのですが、夜間は私が面倒を見てやりたいと思うのですが不十分なんです」と話した。ある日、訪問介護員が訪問すると、Fさんのおむつがぬれたままになっていた。Fさんは、「私が悪いんです。息子は僕がいるときは取り替えてあげるからと言ってくれますが、かわいそうなので起こさず我慢してしまうのです」と話した。このような状況が何度か起こったので、心配した介護支援専門員から連絡を受けたU地域包括支援センターのE社会福祉士が対応することになった。

- 1 親子一緒での生活は無理と判断して、Fさんに施設入所を勧める。
- 2 息子の介護負担が大きいので、遠方にいる娘に助けに来るように依頼する。
- 3 Fさんの気分転換を目的として、通所介護の利用を提案する。
- 4 息子の介護負担の軽減を目的として、夜間対応の訪問介護の利用を提案する。
- 5 虐待事例と判断して、親子の分離を図る。

問題 97 V児童養護施設に勤務するG児童指導員(社会福祉士)は、H君(小学5年生)の担当である。昨日、H君の小学校の担任から、「具合が悪いからと体育の授業はほとんど見学しています。100メートル走の練習で最下位になり、友達にからかわれたことが関係しているのかもしれませんが。今度の運動会に出られますかね。最近、施設ではどうですか」と問い合わせがあった。そこでG児童指導員は、H君と話す機会をもった。

G児童指導員：最近、体育の授業、休んでるんだって。

H君：そうだよ。今度の運動会にも出ないよ。

G児童指導員：そうなんだ。何か、理由があるの？

H君：だって、運動会はつまらないってみんな言ってるよ。だから出なくてもいいんだ。

次のうち、H君の発言を説明するものとして、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 合理化
- 2 抑圧
- 3 同一視
- 4 反動形成
- 5 昇華

問題 98 事例を読んで、エコマップの活用に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

〔事例〕

Jさん(32歳)は、5年前夫と離婚した。実家の父親からも勘当同然の扱いを受けていた。その頃、Jさんが長期に入院療養が必要になったことから、息子(6歳)は児童養護施設に入所した。Jさんはその1年後に退院し、職場に復帰した。実家との関係も改善し、同僚や近隣との付き合いも増えてきたことから、最近は息子を引き取りたいと施設に申し出ている。息子を引き取ることについて支援することになり、K家庭支援専門相談員(ファミリーソーシャルワーカー)は、アセスメントツールとしてエコマップを活用することにした。

- 1 Jさん及び離婚した夫それぞれの原家族を三世代にわたって把握する。
- 2 Jさんの家族力動の洞察を促す。
- 3 Jさんの対人関係の持ち方について体験的に学ぶ機会とする。
- 4 Jさんと家族、離婚した夫、友人、関係機関等の関係を把握する。
- 5 Jさんの同僚との関係を測定する。

問題 99 事例を読んで、Lソーシャルワーカーの対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

〔事例〕

特定非営利活動法人の運営する国際サポートセンターに勤務しているLソーシャルワーカーは、Mさん(28歳、女性)から相談を受けた。Mさんは、フィリピンから5年前に来日し、日本人男性と結婚して3年になる。子どもはいない。結婚当初から夫は気に入らないことがあるとMさんに暴力を振るっていた。Mさんは結婚後しばらく専業主婦であったが、夫からはフィリピンの家族に送金するためのお金ももらってきた。しかし、言葉や文化の違いから、意思疎通がうまくいかなかった。最近、夫が家に全くお金を入れてくれなくなったので、再び飲食店で働き始めた。夫からの暴言や暴力はあるが、Mさんはフィリピンに仕送りを続けるためにも夫と別れたくないという。

- 1 通訳を介して聞き取りを行い、フィリピンの家族の詳しい情報を得る。
- 2 夫との関係を改善するために、Mさんの日本語能力を高める計画を作成する。
- 3 フィリピンへの仕送りをやめて、自立生活の資金に当てるように助言する。
- 4 夫との離婚手続きを進めるために、家庭裁判所に連絡を取り協力を依頼する。
- 5 関係機関への通報を含め、利用可能な社会資源を紹介する。

問題 100 事例を読んで、障害者就業・生活支援センターのN就業支援担当者(社会福祉士)の話し合いの場における対応に関する次の記述のうち、最も適切なものをつ選びなさい。

〔事例〕

障害者就業・生活支援センターのN担当者は、聴覚障害のあるPさん(38歳、男性)の就労支援に当たってきた。1か月半前から事務用品卸売会社でパソコンを用いた在庫管理の業務に従事している。Pさんは就職と同時にアパートでの一人暮らしを始め、仕事、生活ともに順調に経過していると思われていたが、ある日、職場からN担当者に、「昨日、無断で早退し、今日は出勤していない」との連絡が入った。早速、アパートを訪ねたN担当者に対して、Pさんは「職場では、だれともかわりがなく、相手にされていないように感じる」と力なく伝えた。一方、職場の上司によると、「仕事上のことはすべて電子メールで連絡し、それ以外、同僚との交流はほとんどみられない」とのことである。N担当者は、Pさんと職場の担当者、三者による話し合いの場を設定した。

- 1 職場適応援助者の派遣を決めたことを伝え、Pさんに明日からの出勤を促す。
- 2 Pさんの今の気持ちを推測し、Pさんに代わって職場の担当者に伝える。
- 3 休暇届を提出するため、診断書を取りに行くことをPさんに勧める。
- 4 仕事に集中できるように、手話通訳士の配置を職場の担当者に要求する。
- 5 Pさんと職場の同僚や上司との交流の場を設定するよう職場の担当者に提案する。

問題 101 相談援助におけるモニタリングの過程に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 相談援助を計画に基づき展開し、終結した後に、相談援助プロセス全体を評価する過程である。
- 2 地域のネットワークを活用し、住民からの意見を引き出し、地域での課題を見いだすための過程である。
- 3 援助を展開している間に目標どおり計画が進行しているかどうかを把握する過程である。
- 4 サービス利用を申し込んできた人が、そのサービスの対象となりうるかどうかの条件について検討する過程である。
- 5 利用者が必要としているサービス提供のために、問題解決を協働して行うかどうかの契約を結ぶ段階である。

問題 102 事例を読んで、病院の医療ソーシャルワーカーの退院支援における対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

〔事例〕

Qさん(78歳、男性)は、脳血管疾患で入院し、急性期の治療後、回復期リハビリテーション病棟に移ってから1か月半が経過した。Qさんには子どもがなく、妻(77歳)と二人暮らしである。医療ソーシャルワーカーは、退院後の準備に向けてQさんと妻との面接を重ねてきた。しかし、退院の日時が決まると、Qさん自身は家に帰ることを楽しみにしていると言っているのに対し、妻は在宅での介護に不安を感じ、もうしばらくこのまま入院させてほしいと要望した。

- 1 入院をさらに継続できるよう院内の各部署に働きかける。
- 2 Qさんには良好な変化が起きているので、不安を感じることがないように妻を説得する。
- 3 Qさんに療養病床をもつ病院への転院を勧め、病院見学に同行する。
- 4 夫婦合同面接で、退院後の生活について具体的な対策を話し合う。
- 5 Qさんの意志を尊重し、早急に自宅に帰れるよう工夫するのが妻の役割であると説得する。

問題 103 相談面接の技法に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 「繰り返し」は、クライアントがソーシャルワーカーの言動に対して負の感情を呈示した場合に有効である。
- 2 「沈黙」は、ソーシャルワーカーがクライアントに強調して伝えたいことがある場合に有効である。
- 3 「言い換え」は、クライアントの発言からクライアントの気づきを促す場合に有効である。
- 4 「相づち」は、クライアントの問題状況への対応に関してソーシャルワーカーの価値判断を伝える場合に有効である。
- 5 「閉じられた質問」は、クライアント自身による言葉を引き出したい場合に有効である。

問題 104 多職種チームに関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 多職種チームの会議では、取り扱う事例や協議事項の内容にかかわらず、特定の職種がリーダーを務める。
- 2 メンバーが共通にアクセスできる記録システムをもつことによって、メンバー間の効率的な協力が可能となる。
- 3 メンバーの専門的な立場がそれぞれ異なるために、メンバー間で互いの不安や葛藤を受け止めることは困難である。
- 4 多職種チームの会議では、ソーシャルワーカーはスーパーバイザーとしての役割を果たし、アドバイスなどを行う。
- 5 多職種チームによる連携では、チームの各メンバーができる限り同じ役割を果たすように努める。

問題 105 事例を読んで、グループワークの最終段階におけるソーシャルワーカーの対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

〔事例〕

X総合病院では、医療相談室の主催で、発達障害のある子どもをもつ家族を対象に6回連続の「子育て教室」を隔週で実施している。各回の前半では、医師や臨床心理士による講義と質疑応答を中心に、障害や子どもへの対応の仕方などについての理解を深めた。後半には、不安や悩みなどを家族同士が話し合うプログラムを提供した。グループのメンバーからは、今後も悩みを話し合えるような場を持ちたいとの声も聞かれた。そこで、このグループのセルフヘルプグループへの移行も視野に入れ、「子育て教室」の最終回の計画を立てた。

- 1 感情面での評価よりも、教育効果の確認を優先する。
- 2 メンバーの要望が強い場合には、これまでどおり相談室主催で教室を継続する。
- 3 メンバー同士のトラブルを避けるため、メンバーへの個別援助を強化する。
- 4 メンバーに対する肯定的評価を伝達する。
- 5 地域の家族の会から会員を招いて、活動内容を紹介してもらう。

問題 106 グループワークにおけるプログラム活動の選択に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 グループのメンバーそれぞれの目標とグループ全体の目標の双方を達成できるかどうかを基準に選択する。
- 2 グループ活動を円滑に展開するため、グループワーカーの個人的な好みや得手不得手を基準に選択する。
- 3 グループの活動期間を通じてメンバー間の親和性を高めることを重視し、メンバー間に葛藤を生じさせないことを基準に選択する。
- 4 凝集性を高めるために、多様なメンバーそれぞれが、同一の参加方法でかかわることができることを基準に選択する。
- 5 複数のプログラム活動で全体のプログラムが構成される場合であっても、各プログラム活動において参加メンバー全員が満足することを基準に選択する。

問題 107 Y児童相談所では、不登校の中学生を対象としたグループワークを実施している。月に2回の頻度で半年間、全12回のプログラムとして提供され、今回は8名の子どもたちが集まった。回を重ねるうちに、子どもたち同士の会話に、「そういう乱暴な言い方は、このグループには合わないよー」といった指摘がいくつか見られるようになった。やがて、子どもたちが着てくる服装に類似性が見られるようになったり、似たような言葉使いや態度がグループの特徴として明らかとなってきた。

次のうち、このような力動をもたらす要因として、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 集団規範
- 2 集団意識
- 3 集団行動
- 4 集団思考
- 5 集団決定

問題 108 事例を読んで、スーパーバイザーの対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

〔事例〕

就労移行支援事業所に勤めるR職員は、利用者Sさん(39歳、男性)が、ここ2か月ほど元気がなく、いつも汚れた服を着ていることが気になっていた。Sさんの家族と話をする必要性を感じ、家族に電話をしたところ、Sさんの父親に「お前に何がわかるのだ」と怒鳴られ、一方的に電話を切られた。R職員は再度電話をしようとしたが、怒鳴られたことがショックで電話がどうしてもできなかった。そのことを上司によるスーパービジョンの場で報告した。

- 1 早急に心理治療を受けるように促す。
- 2 R職員に代わって電話をし、父親とR職員との関係を修復する。
- 3 家族に電話をすることのもつ難しさについて、R職員と話し合う。
- 4 ピア・スーパービジョンを設定し、R職員の心理的弱さを取り上げる。
- 5 R職員が適性を欠いていることを所長に報告する。

問題 109 相談援助の記録に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 クライアントとの接触で起こった事実をありのまま記録する過程記録は、物語のようにその過程を追うものであり、長期にわたる援助過程を記録するのに有効である。
- 2 クライアントに当人のケース記録を開示する場合には、ソーシャルワーカーには、その記録に含まれる第三者の秘密を守ることが求められる。
- 3 サービス提供者間で記録を共有することは協働を促進し、関係者間で開催する会議を代替しうる。
- 4 面接場面で起こった詳細な内容を伝えるためには、記録者の解釈を加えた逐語記録が適している。
- 5 福祉サービスの提供者と利用者との対等な関係を保つために、社会福祉法の制定により、記録の役割に説明責任を求める条項が新たに付け加えられた。

問題 110 事例を読んで、事例検討会のあり方をめぐるT社会福祉士の対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

〔事例〕

U地域包括支援センターでは、支援困難事例への対応方法の検討と地域におけるネットワークづくりを目的として、地域における複数の機関に所属する多職種の専門職をメンバーとした事例検討会を2か月に1回のペースで定期的で開催している。センターのT社会福祉士がこの検討会の事務局を担当している。この日の検討会では、居宅介護支援事業所のA介護支援専門員が現在担当している事例を提供した。

- 1 検討の対象となるのは提出された事例であることから、A介護支援専門員の心理的サポートについては取り扱わないようにする。
- 2 事例検討会の効果を上げるために、参加者による体験談の開示を中心に進める。
- 3 A介護支援専門員が提供した事例に対する援助方針に加えて、この地域に必要な社会資源を確認することも検討内容に含まれる。
- 4 事例検討会を円滑に進めるために、事例提供者の直接の上司がスーパーバイザーとして参加することを基本ルールとする。
- 5 個人情報保護の観点から、事例の検討に際して、クライアントの近隣に関する情報については提供しないようにする。

問題 111 事例を読んで、B相談員(社会福祉士)の対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

〔事例〕

婦人相談所の配偶者暴力相談支援センターのB相談員は、約3か月前からCさん(30歳、女性)と定期的に面接を重ねてきた。Cさんは、27歳で結婚して以来、夫からの暴力で悩んできた。最近の面接でCさんは、「私への暴力が少し減ったとはいえ、やっぱりこのまま彼と生活していくことに耐えられません。いよいよ離婚を決断しなきゃという感じです。でも、子どものことや、離婚後の生活のこと、お世話になった人のことを考えると、なかなか踏み切れなくて・・・」と話した。

- 1 暴力の実態についてさらに情報を集め、離婚すべきかどうかを判断し、Cさんを支援する。
- 2 離婚がもたらす環境の変化や得られる支援の実際について整理し、Cさん自身が意思決定できるように支援する。
- 3 夫と個人面接を実施し、暴力が収まる可能性があるかどうかを見極める。
- 4 離婚に係る手続きに必要な書類を用意し、決心がついたら連絡するよう伝える。
- 5 離婚後の子育ての大変さを伝え、拙速に答えを出すことを自重するよう伝える。